

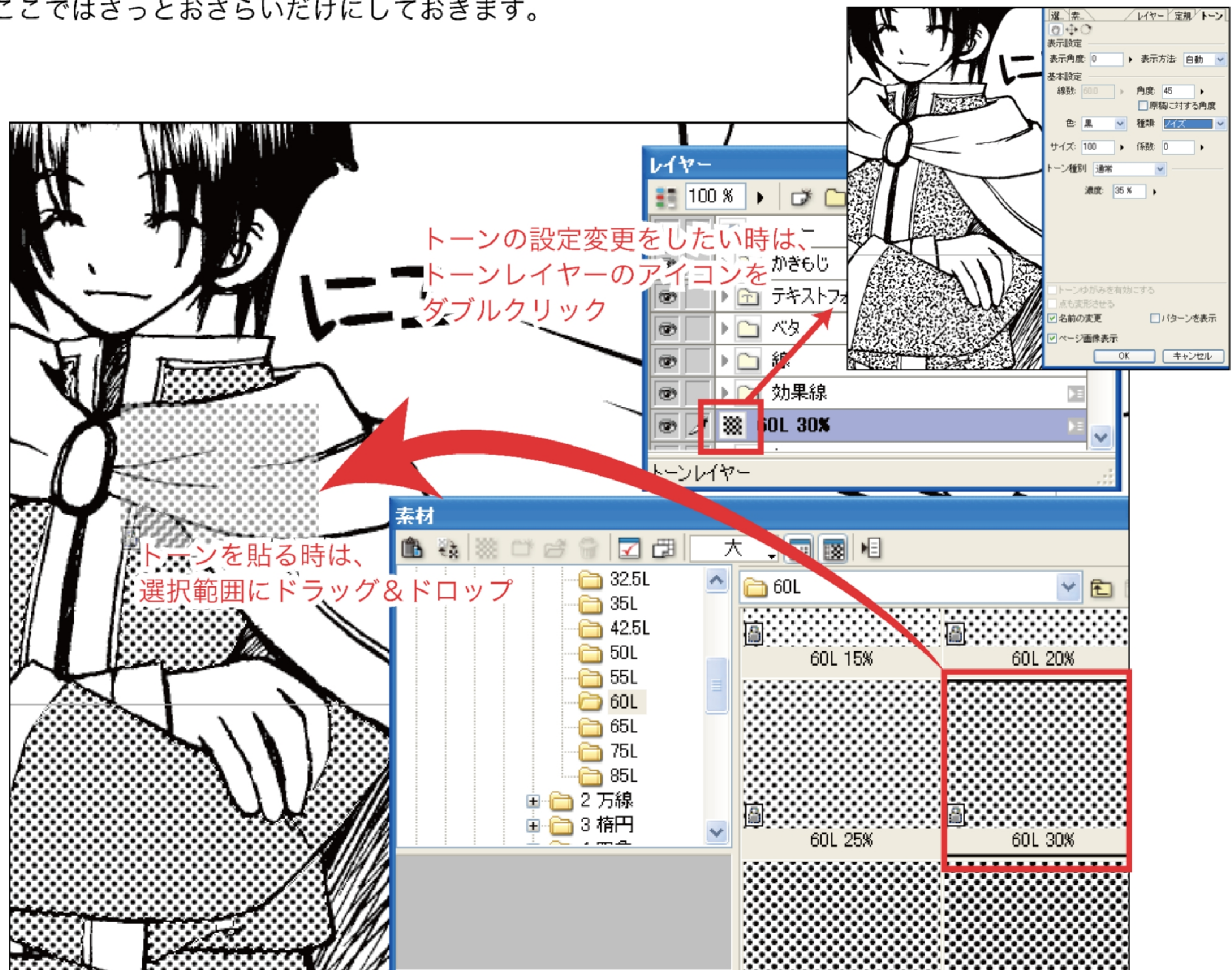
はじめの一步

やっぱり紙も好き!

~ペンと紙を ComicStudio で使おう~

第8回 仕上げをしよう! ~その3 トーンを貼ろう! ~

さて、今回はいよいよトーンです。
トーンの貼り方や貼り足し、削りなどの基本操作は、すでに色んなところで紹介されているので、ここではさっとおさらいだけにしておきます。



では、実際に原稿にトーンを貼っていきます。トーンは、

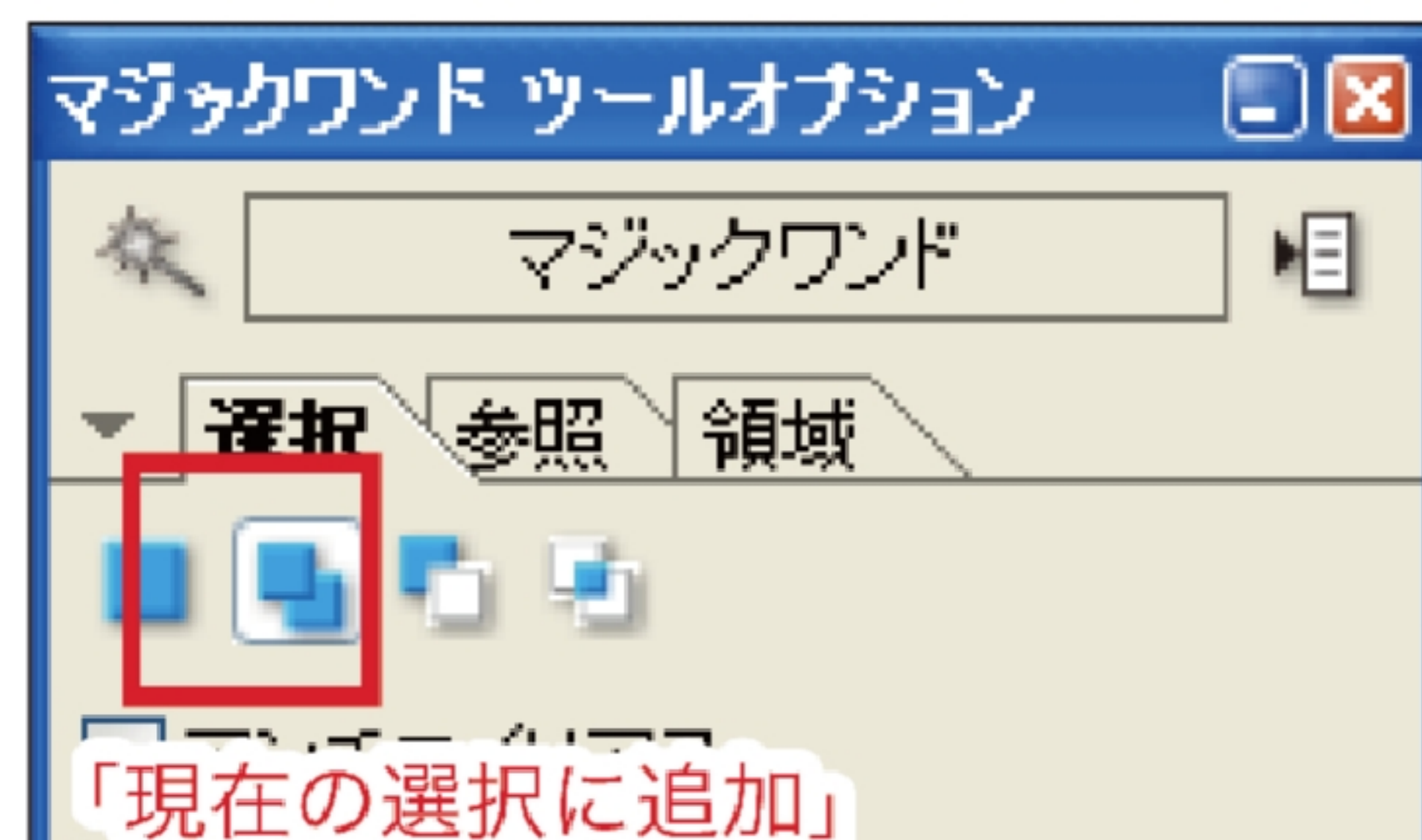
- 1, 基本トーン (キャラクターの洋服、髪の毛など)
- 2, 背景など効果トーン
- 3, 人物の影

この順番で貼っていきます。デジタルの場合、後から貼り直しや変更が簡単にできるのであんまり順番にこだわる必要はないかもしれませんが、まずは基本トーンを貼って、そのバランスを見ながら背景、影部分を貼っていったほうが画面のバランスをとりやすいと思います。それでは、トーンを貼っていきましょう。

トーンを貼ろう！

貼りたい場所をマジックwandツールや、なげなわツール、折れ線選択ツールで選択します。オススメは『マジックwandツール』。ComicStudioのマジックwandツールは、小さな隙間を無視して選択範囲を作ってくれるので、すごく便利です。

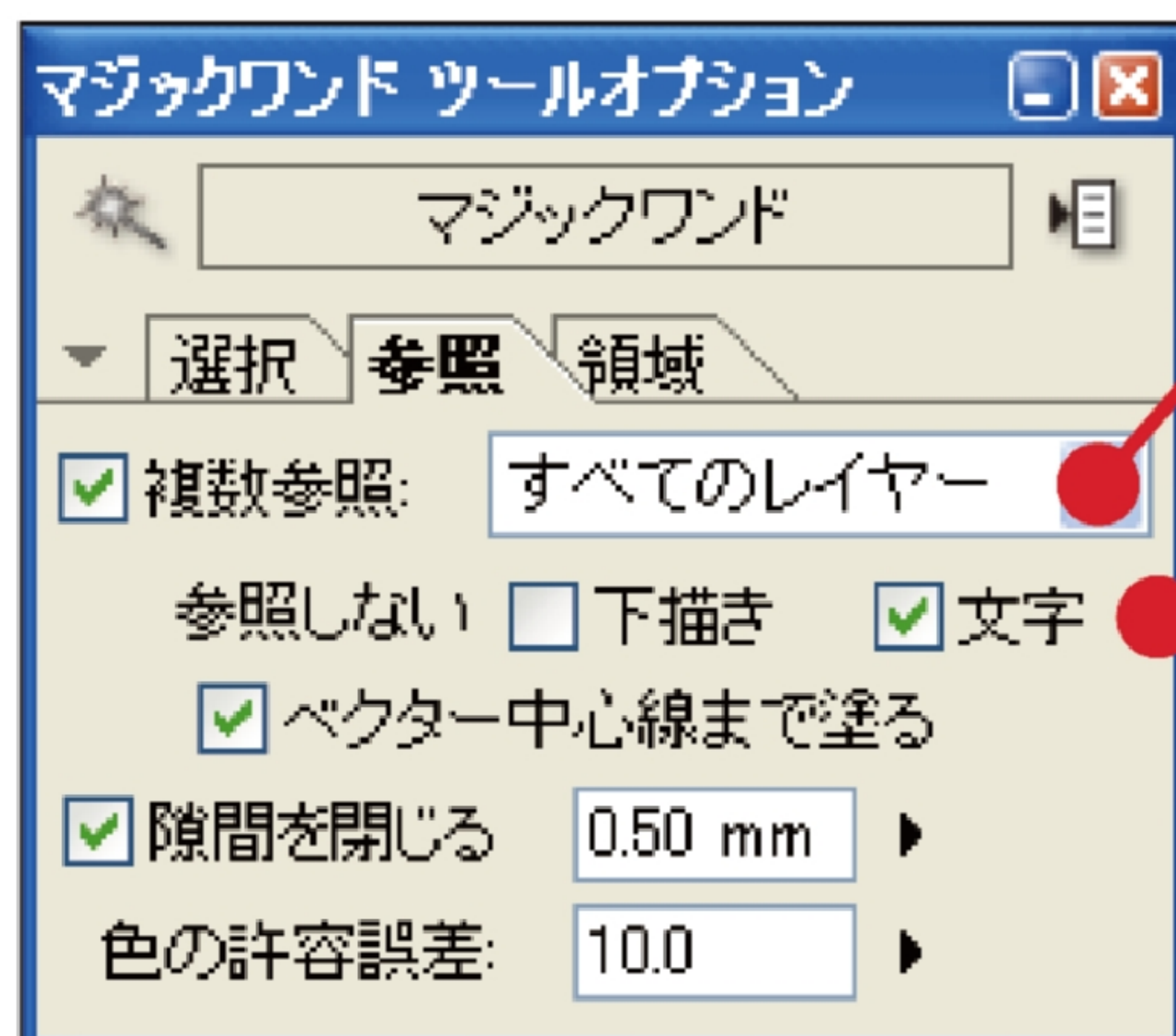
マジックwandツールを以下の設定にして、トーンを貼る場所を選択していきます。



「現在の選択に追加」
シフトキーを押しているのと同じ状態になる。



「領域を拡張」
ちょっと拡張するとキレイです。

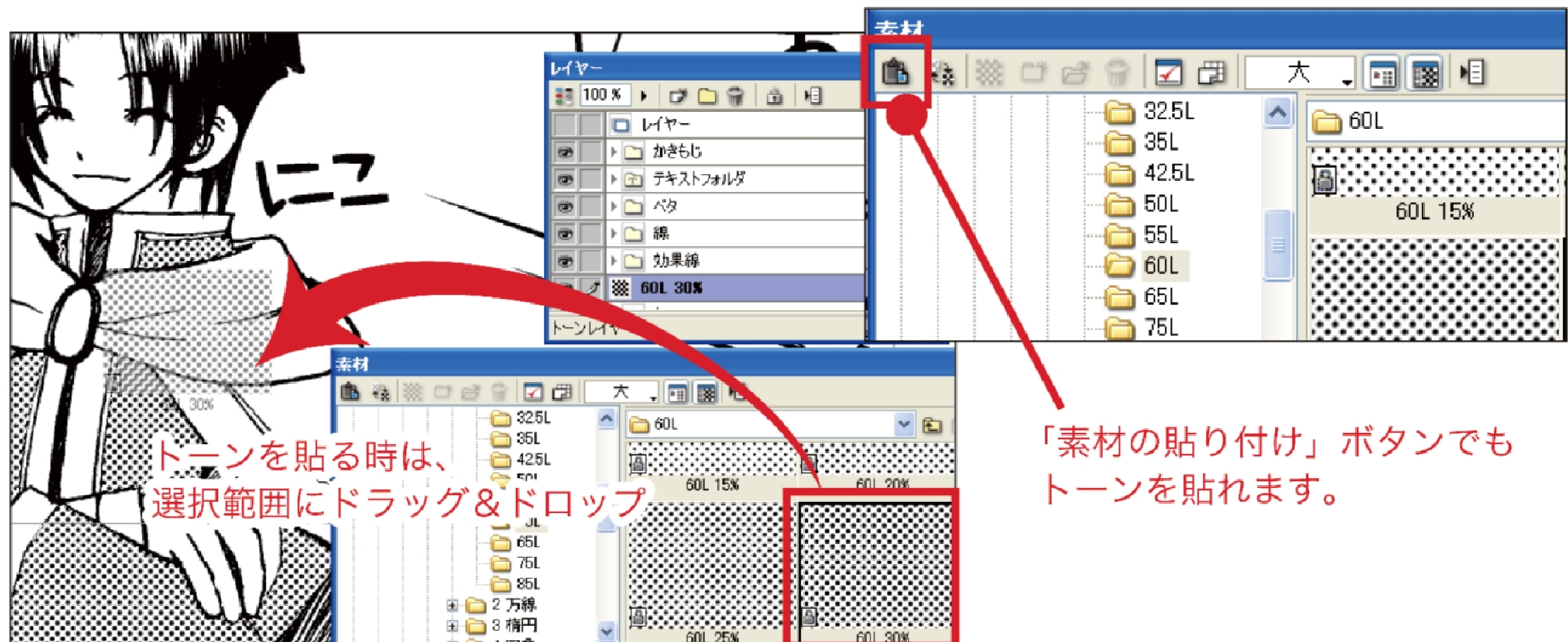


「領域を拡張」
ちょっと拡張するとキレイです。

「参照しない」は「文字」にチェックを入れておく。
テキスト、フキダシを無視して選択範囲を作ります。

タチキリ枠(第6回参照)を下描きレイヤーで作っている場合は、「下描きを参照しない」のチェックをオンにしないように気をつけます。これをチェックしてしまうと、下描きレイヤーを無視して選択範囲を作るので、タチキリ枠の意味がなくなってしまうからです。

後は、貼りたい範囲を選択して、貼りたいトーンをドラッグ&ドロップ、もしくは「素材の貼り付け」ボタンで貼り付けます。

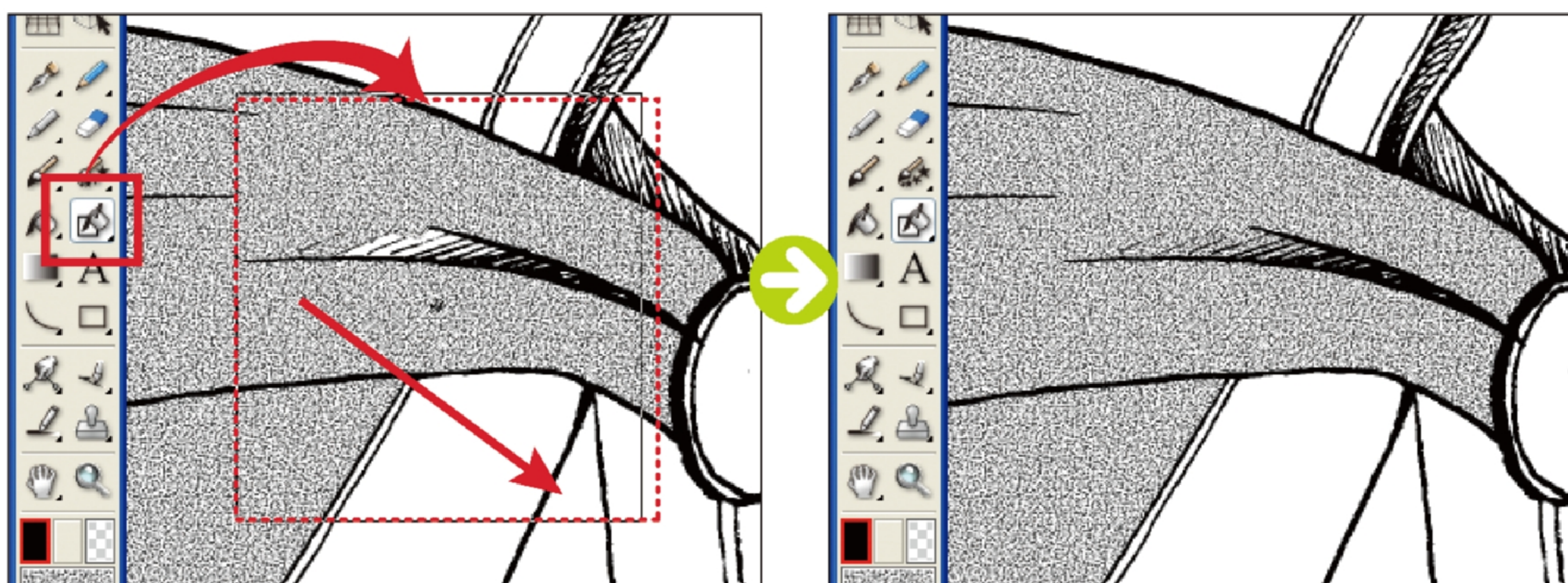


トーンを貼る時は、
選択範囲にドラッグ&ドロップ

「素材の貼り付け」ボタンでも
トーンを貼れます。

Point 1 細かい貼り残しは、閉領域フィルで！

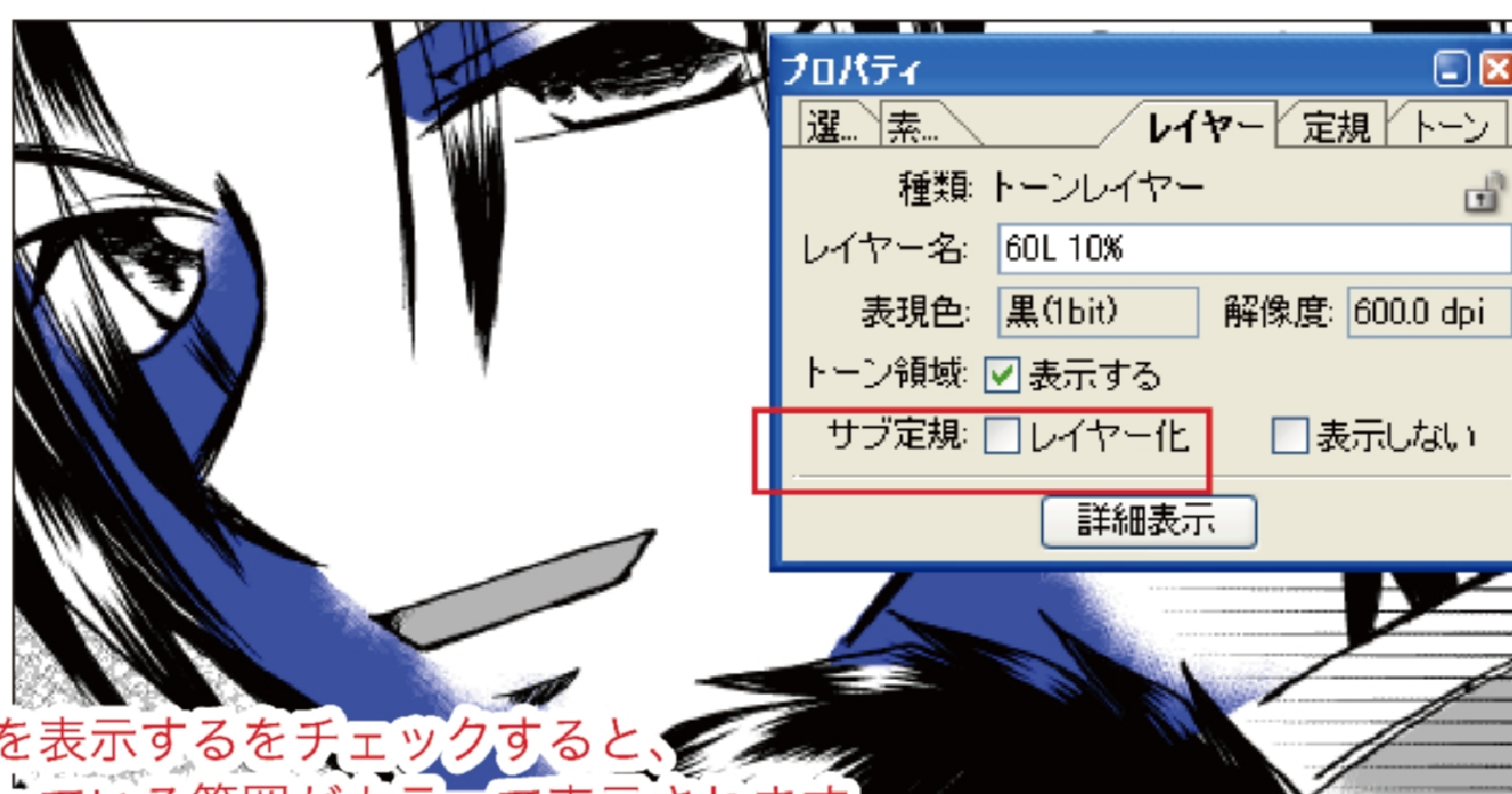
マジックワンドで選択されなかった部分は閉領域フィルで塗っていきます。



閉領域フィルをインク色「黒」、参照先を「すべてのレイヤー」にして塗ります。

Point 2 貼っている範囲を知りたい時は……貼り付け領域の表示

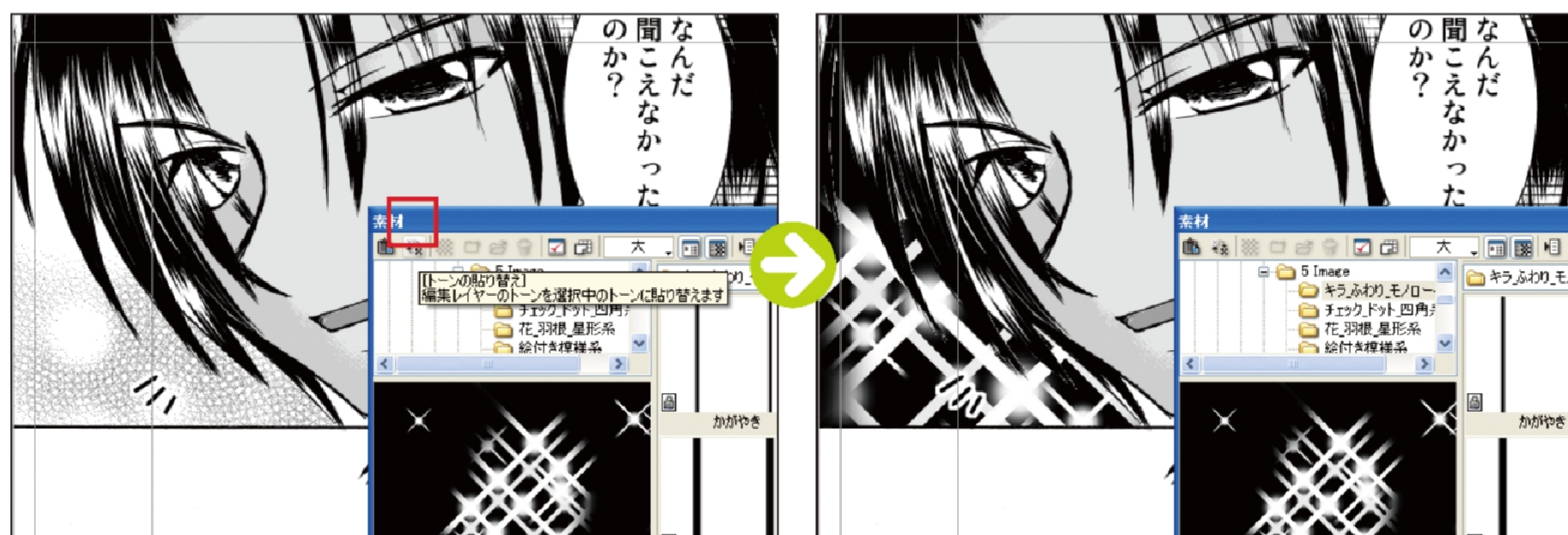
網点のトーンだと、トーンを貼っている範囲がわかりにくかったりします。そんな時は貼り付け領域の表示をします。



トーン領域を表示するをチェックすると、トーンを貼っている範囲がカラーで表示されます。

Point 3 トーンの貼り直しは「トーンの貼り替え」ボタンが便利

柄トーンの貼り直しをしたい時は、貼り替えたいトーンを選んで「トーンの貼り替え」ボタンを押すと簡単です。

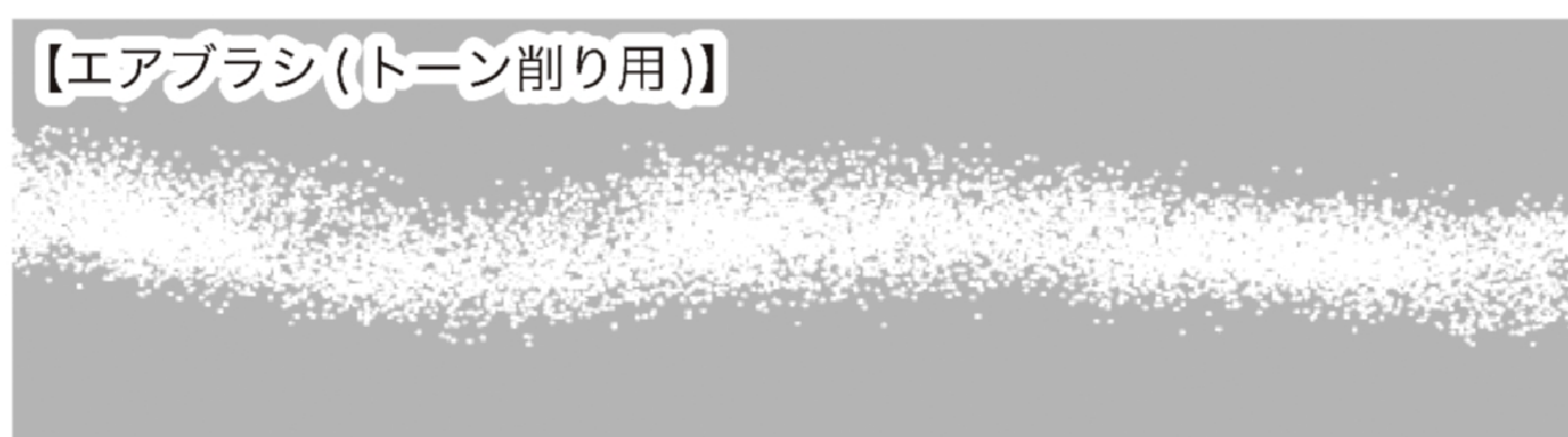
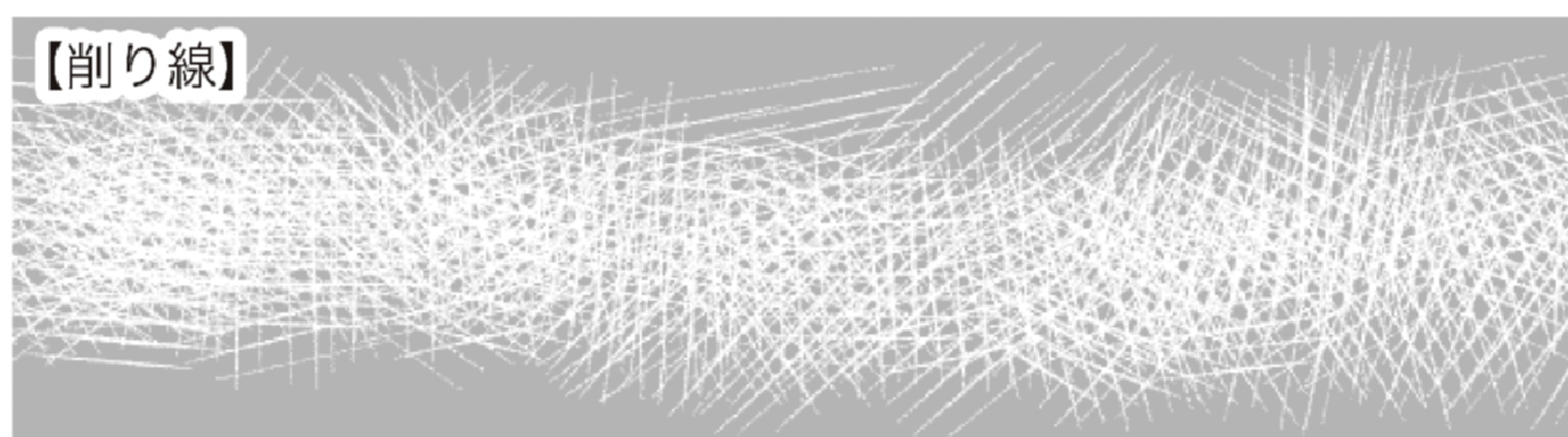
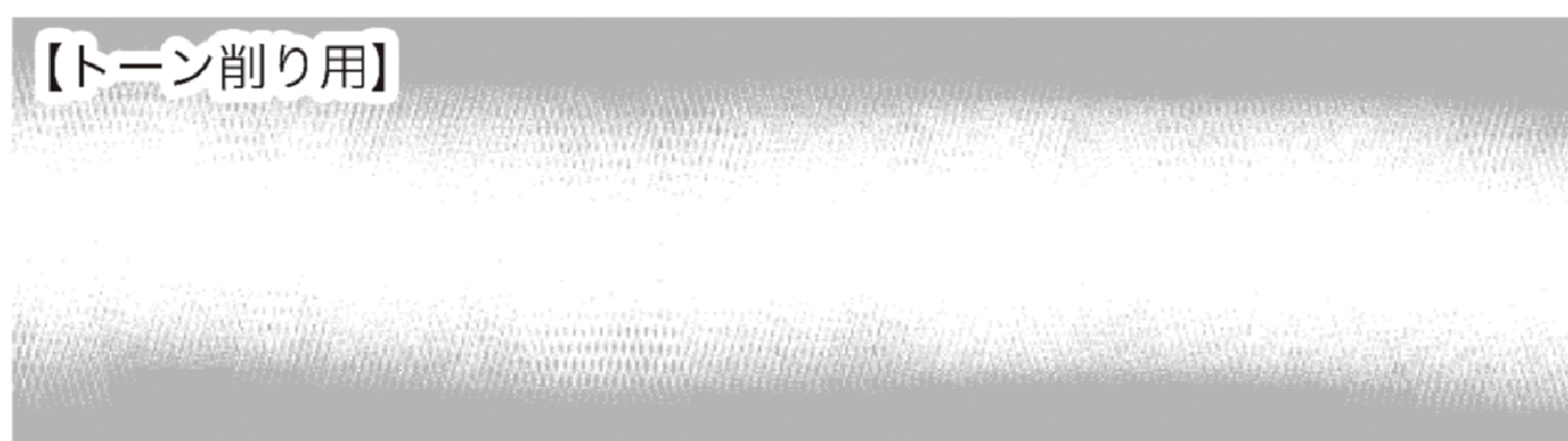


トーンが貼り変わりました。

トーンが貼れたら、次はトーンを削ってみましょう。

トーンを削ろう！

では、次にトーンを削っていきます。トーンを削る時は、パターンブラシを使います。削りたいトーンレイヤーを選び、インク色は「透明」を選んで削っていきます。



一番キレイに削れるのは「トーン削り用」ですが、シーンのあわせて、自分の好きなパターンブラシを選ぶといいと思います。

Memo 髪の毛にツヤを入れる

今回は髪の毛にトーンが貼ってあるキャラはいませんが、トーン髪のキャラにハイライトを入れる場合は以下の方法があります。



トーンレイヤーに直接ペンツール（筆等）を使ってツヤを入れる。



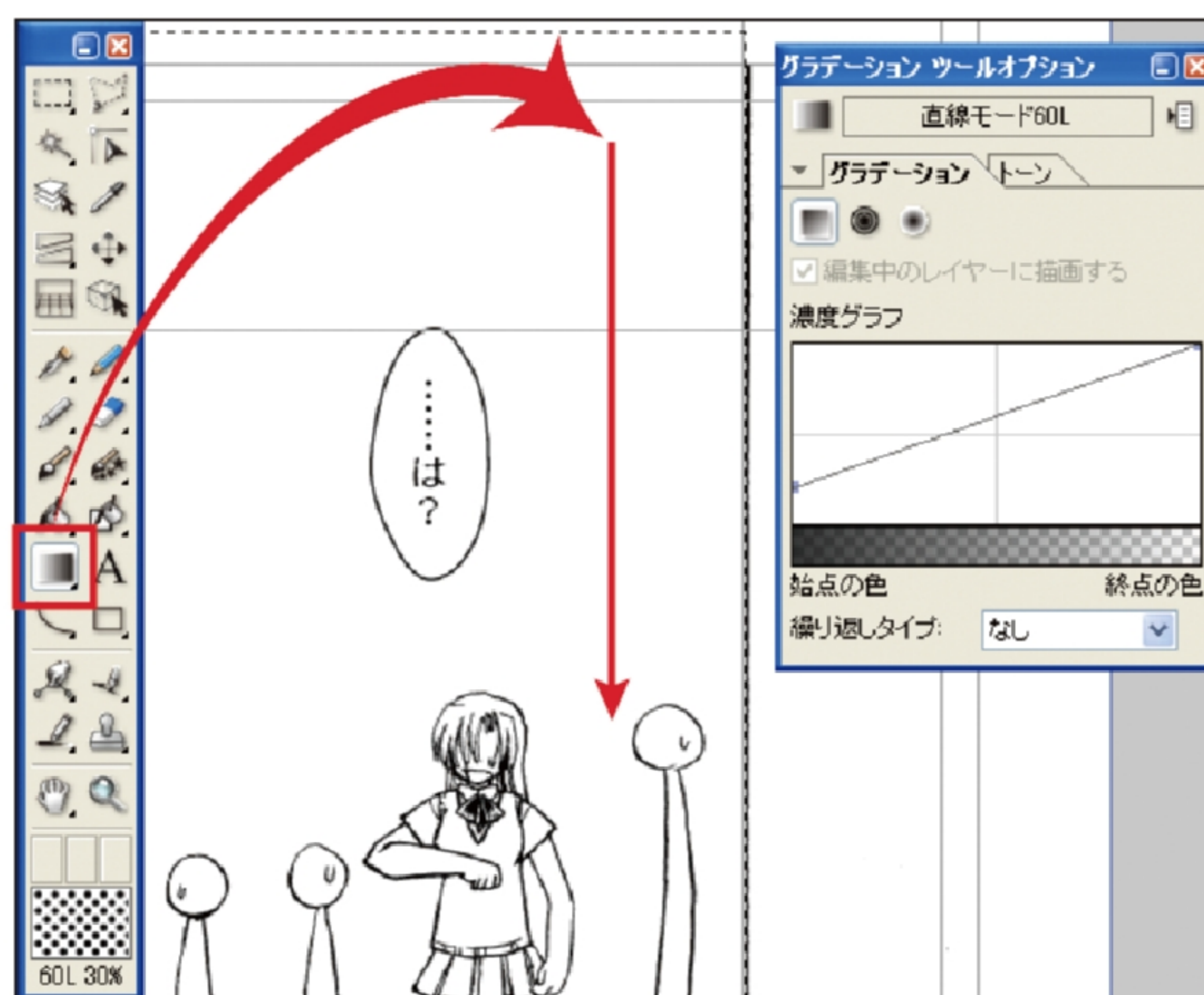
ハイライト用のレイヤーを作って、インク色を白にして、ツヤを入れていく。ツヤの下線が消えるので、雰囲気はちょっと変わる。



ハイライトの位置に楕円選択ツールで選択範囲を作り、反転。その後、選択範囲に沿って、パターンブラシの「トーン削り用」で削っていく。

グラデーショントーンを貼る

グラデーショントーンを貼る時は、グラデーションツールを使うと便利です。このツールを使うと簡単に好きな幅にグラデーショントーンを貼ることができます。



選択範囲を作って、グラデーションツールを選んで、貼りたい長さ分、ドラッグすると……

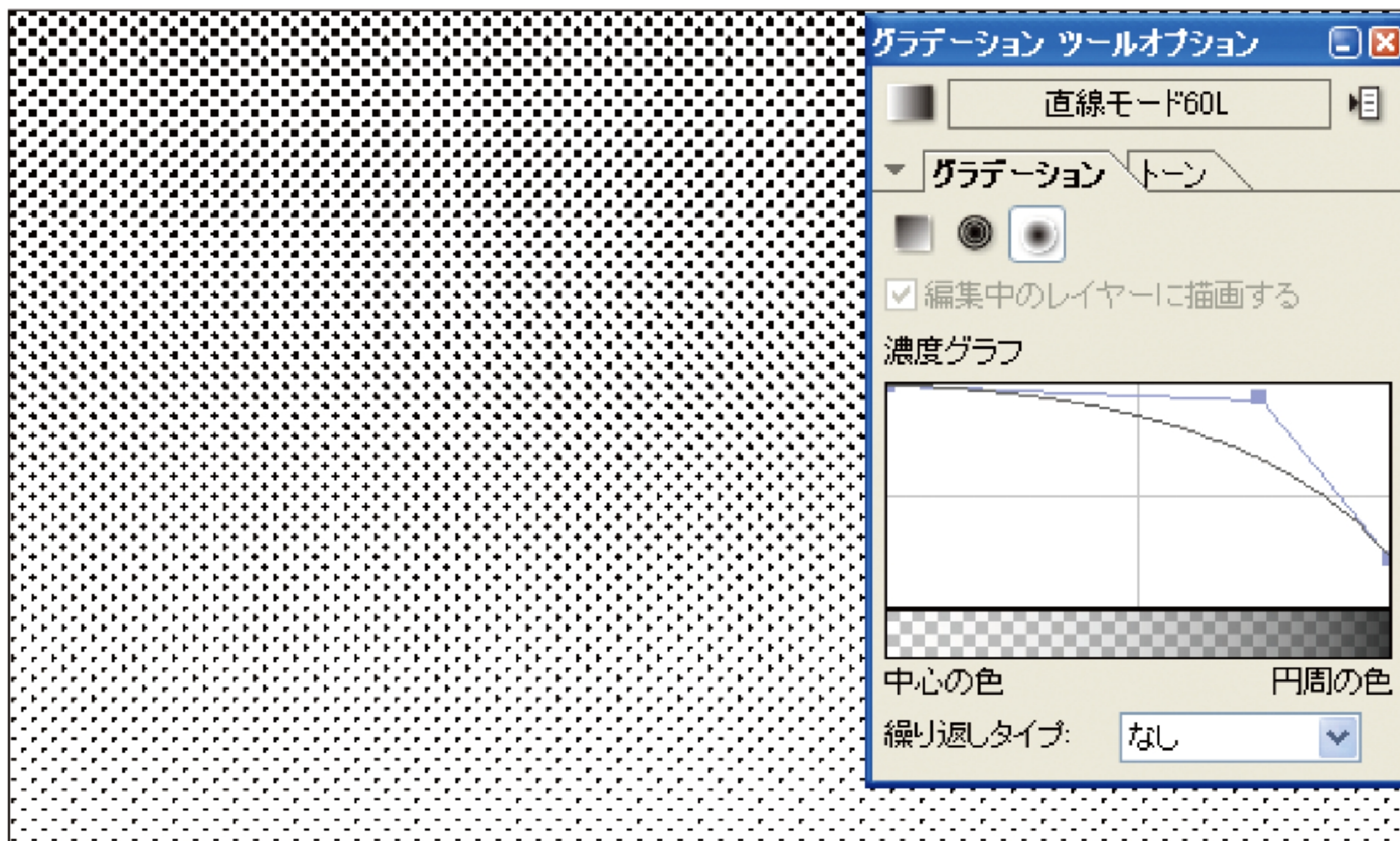


グラデーショントーンが貼れました。

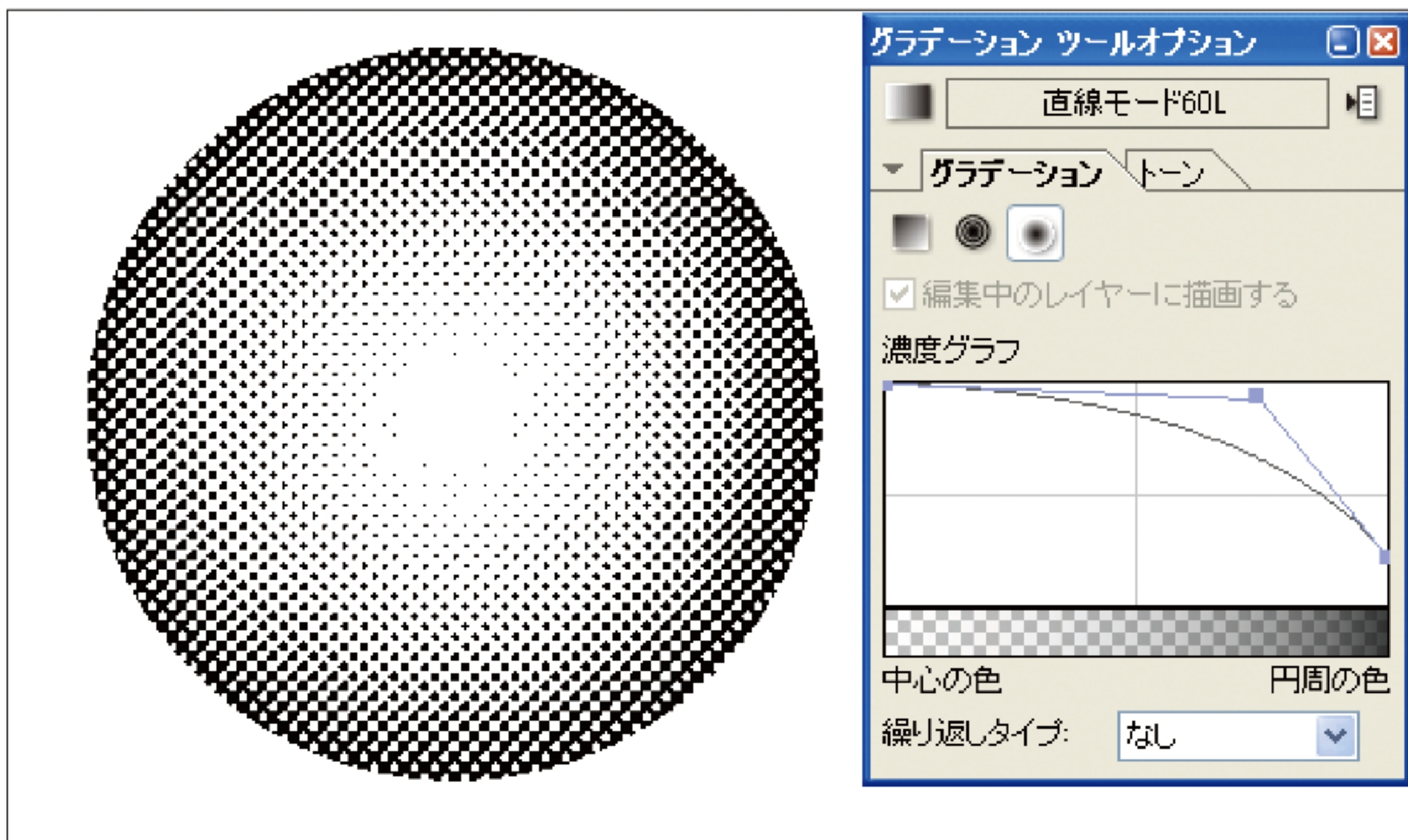
グラデーションツールの「選択レイヤーに描画する」のチェックがオンになっていると、選択されているレイヤーにグラデーションが描画されてしまいますので、気をつけましょう。また直接描画できないレイヤーだと、自動的にグラデーショントーンが作られます。

デフォルトの設定のグラデーショントーンは濃いめなので、薄めの設定をつかって保存しておくると便利です。また、設定次第で、色々なグラデーショントーンが作れるので、試してみてください。

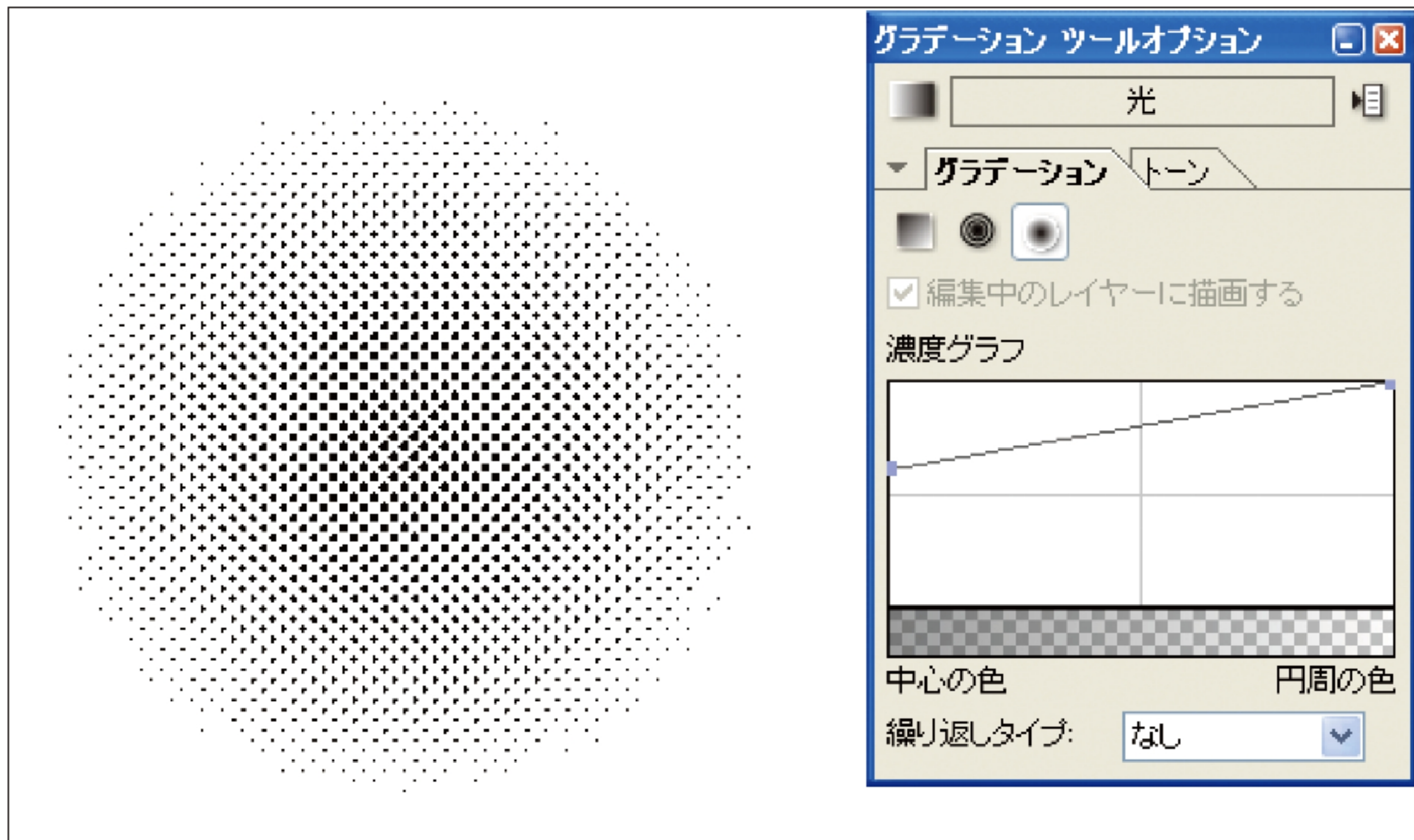
【薄目のグラデーション】



【中央が明るいグラデーション】



【ほわほわしたグラデーション】



さて、ちょっと長くなってきたので、今回はこの辺で。
次回は、いよいよ最終回。トーン仕上げと汎用フォーマットへの書き出しを紹介します。